



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## — あいなん音故地新 — 「新たなはじまりに」

新しい一年の始まり。愛南町にとって、皆さんにとって笑顔と希望にあふれ、実り多き年になりますように。

さまざまな苦境に耐えた昨年。会いたい人には会えず、家族と過ごせず、行きたい所にも行けなかったし、私個人としては音楽活動もできず、ある時期は鍼灸の仕事も減らさざるを得ず…。ただ、その分自分に必要な物事や人間関係がハッキリと見えて、身の回りを整頓するいい機会でもあった。なんだって、いつだって、光と影は背中合わせ。苦境の中でも前に進んでいける。昨年経験のない状況の中でも屈することなくコツコツと地道にまいた種は必ず花を咲かせ、実を付ける。昨年以上の苦しみはない、と自分に言い聞かせて前を向いてこの一年を過ごしていこうと思う。

コロナ禍では愛南町から届く小包にどれだけ心救われたことか。ふるさとの持つ力の大きさを改めて感じる事ができた。愛南町の皆さん、いつもこの町を守ってくださり、発展のために力を注いでくださりありがとうございます。離れた街で"愛南町"を目にするたび励まされ、背中を押され、力が湧いてきました。そんな皆さんに今までにない最高の一年が訪れることを心から祈っています。



(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.122



### 「お殿様がやって来た！」



1月号の写真は、お正月らしいものを選んでいますが、10年も連載していると、ややマンネリ化してきている。それでも懲りずに、今年もおめでたい、タイの話である。

トノサマダイという立派な名前が付いているが、その愛らしさからは、王子様と言った方がぴったりとくる。卵や幼魚の時に、南の海から黒潮に乗ってはるばる愛南町までやって来た。サンゴの枝の間に隠れ、サンゴのポリプを食べ成長する。全身がレモン色で、成魚になっても15センチほどのかわいい魚である。

名前にタイと付いているが、実はチョウチョウオの仲間だ。「腐っても鯛」と言われるように、日本人が大好きなタイが付いた、いわゆる「あやかりタイ」の一種である。



【トノサマダイ（殿様鯛）】

ピカピカ光る巨大な生き物（カメラのストロボを光らせる私）に追いかけられ、サンゴの枝の中に隠れてほっとしているかわいい王子様である。

(撮影地：須ノ川)

愛南サンゴを守る会 ともてる 西尾知照